



宝木地区 公民館だより

7月21日(水) 文化部「滝めぐり」 青谷町の不動滝にて

「通学合宿」

事業について

公民館長 吉田亨

平成二十二年度の公民館事業は、皆様のご協力をいただきながらほぼ計画どおりに進んでいます。本当にありがとうございます。

さて、最近、子ども事業への参加が児童数の減少以上に少なくなってきました。

中でも、宝木小学校区のメイソン事業である、公民館を宿泊所として自分達で炊事、洗濯、掃除などして地域の人にお世話になり学校に通う「通学合宿」事業は年々減少し、今年は十名の参加でした。

「通学合宿」は昨年の反省、子ども達の感想などを踏まえて、企画提案(酒津地区公民館)され、「通学合宿」実行委員会で検討された事業です。

都合により宿泊日数が短縮され、子ども達の貴重な体験である食材の買い出しも一回に限定される等ありましたが、地域・学校のご協力を頂き、体調

を崩す子どももなく、無事に事業が終了でき感謝しています。

後日、子ども達の感想では、生活体験をおして、みんな協力して作る喜び・楽しさ・お世話をして頂いた皆様への感謝の気持ちが出ていました。

学校でも、通常と変わらない生活態度で大変よかった。通学合宿に参加している子ども同士で仲良く関わり合っている姿が見られたなど大変好評でした。

今後とも、子ども達の声が反映されるような、少しでも多くの参加ができるような、魅力ある事業にしていきたいと思っています。



通学合宿の様子

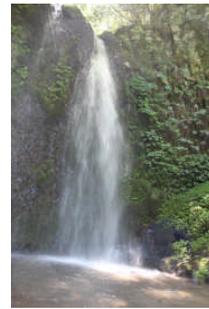


朝起きて朝ごはんを
立って朝ごはんを
献立して朝ごはんを
子ども達が決めた
早起きして朝ごはんを
献立して朝ごはんを
子ども達が決めた

文化教室に参加して

三牧 正吾

七月二十一日に実施された「滝めぐり第二弾」に参加しました。



河根裕二さんの説明を聞きながら今回の研修先である県埋蔵文化センター青谷調査室・青谷上寺地遺跡発掘現場・不動滝・妙円滝・子守神社・あおや和紙工房・利川神社・山根酒造を見学してきました。

青谷調査室では弥生時代最長の柱をはじめとした木製品や土器を間近に見学でき、発掘現場では猛暑の中、作業を見学し大変な作業であることを感じさせられました。

山陰の霊場として知られる不動滝、妙円滝ではマイナスイオンをたっぷり浴びる事が出来ました。

あおや和紙工房では和紙を使ったバック作りを体験し、皆夢中になり出発の時間が遅れるくらいでした。

山根酒造では江戸時代より

使用された酒造道具、酒器などが展示されており又酒造りの説明を聞き、因幡の酒のルーツが見えてきたような気になりました。試飲をし、お土産を買って帰路につきました。

今回は青谷地区と近場の研修でしたが子守神社、利川神社など有名な神社があることを知り、大変勉強になりました。



環境視察に参加して

前田 政昭

開通(姫島線鳥取河原間)したばかりの鳥取道を「初めて通るなあー便利になったもんだ」、「見慣れん所だな、どのへんだらあな?」などと話しているうちに河原の道の駅を通過し、二〇分くらいで用瀬インターを降り、今回の研修先である因幡環境整備(株)に到着しました。

同社では二〇〇四年から智頭町の協力を得て生ゴミの回収事業を始め、同時に液肥の製造プラントを建設し、独自の技

術で良質な液肥の開発に成功されたそうです。自社農場や契約農家で完全無農薬の有機栽培に取り組み、食品廃棄物の回収から再生、生産、販売、消費という循環型社会の実現に向けた挑戦を続けているとのことでした。

「液肥で育てた野菜は収穫量も増え色つやも良く、美味しいですよ」という社長の話を聞き、参加者からも液肥を使ってみたいとの声も出ていました。

昭和三〇年代の日本の風景を今に伝える智頭町の「板井原集落」を見学し、集落で採れた山菜のお風呂飯をいただき、午後からプラスチックの再生工場に向いました。

気高地域から収集されたプラスチックゴミも、同社の「いなば・エコ・リサイクルセンター」に集積されていました。機械で選別再生されていますが、プラスチック以外のごみも混ぜられているため、どうしても

プラスチック以外のごみも混ぜられているため、どうしても



後には人手が必要との事、分別する側にゴミではなく資源として、リサイクルされているという認識が重要だと感じさせられた研修でした。

おもちゃ病院に行つて

福井 由美子

我が家には三歳と二歳の子どもがいて、毎日いろんなおもちゃで遊んでいきます。時にはおもちゃの取り合いになったり、振り回したり、たいたたり……。だから壊れることもよくあり、もつ使えないから捨てなきゃなあ、と思っていました。



そんな時、ご近所のお友達がおもちゃの病院のことを教えてくれました。その時は、子ども達のお気に入りのアンパンマンのピアノの音が出なくなっていたので半信半疑でおもちゃの病院へ行って行つたところ、余りにも重傷で入院する

ことになりました。後日、音が
でるようになったピアノを先
生が自宅へ持ってきてくれた
時、子ども達は大喜び！

二度目は子ども達と一緒に
おもちゃの病院へ行きました。
子ども達は先生がおもちゃを
直す姿に興味津々。おもちゃが
一つずつ直っていくと大喜び
していました。

今ではおもちゃに何かある
と「おもちゃの病院へ行って行
こう」と言うようになりました。
直してもらったおもちゃで
元気に遊んでいます。

奥沢見サロン出前公民館

水田 充

奥沢見ふれ
あいサロンで
はこの五月か
ら、宝木地区公
民館健康部出
前事業のご協
力により「健康



と向き合うひと時を開催し、
毎月のサロンの初めに会員の
健康チェックのコーナーを持
っています。

地区公民館
が派遣して下
さった看護師
経験者さんに
よって、血

圧・体重・体
脂肪などを測

定、結果を健康手帳に残してい
ます。記録を基に適切なアドバ
イスを頂けるので会員の健康
管理に大いに役立つものと思
っています。

また看護師経験者さんとの
懇談も大変有意義です。先回は
「カメバ万年」という話を聞き
ました。

「一口三〇回噛みましょう。」
食べ物をよく噛むと脳の働き
を良くし、血圧もよくなり、認
知症の予防にもなり・記憶力の
低下も軽減でき、手軽にできる
長生き法です。自宅で簡単にで
きる、お金のかからない健康法
ですと聞きました。

高血圧を引き起こす塩分に
ついて味噌汁の塩分濃度を
測定して貰えるとのこと。次
回希望者はお汁を持参するよ



うにこのことでした。

誰もが健康でありたいと願
い、病気の予防や早期発見の大
事なことはよく知っている筈
です。テレビの健康情報も多く
入ります。しかし、その実践は
なかなか伴わないのが実情で
はないかと思えます。月一回で
も自分の健康と正面から向き
合う機会を作って頂いたこと
は大きな意味があるように思
います。

宝木の畑に行こう

徳本 悦子

子ども事業で昨年までは里
芋を作っていたのですが、今年
は大豆を作ることにになり、小学
校前の畑に孫と一緒に大豆の
種をまきに行きました。

六畝の畑に幅一メートルで
二十五センチ間隔に一・三粒の
大豆をまき
ました。

大豆の芽
が出て育ち
始めた六月
の中頃、雑
草も伸び草



取をしようと準備しましたが、
前日からの雨で延期になり、七
月終りの暑い中、子ども達と一
緒に汗を流して草取りをしま
した。大豆も大きくなっていま
したが、草も負けじと根を張っ
ていきます。子ども達には大変だ
ったと思いますが、みんな一生
懸命に草を抜いていました。

種まき、

草取りな
どの世話
をし、収穫
するとい
う経験を
子ども達
と一緒に
できて嬉しく思っています。子
ども達には自分達が育てた作
物を収穫する喜び、野菜を育て
ることの大変さ、そして自然の
恵みに感謝する心を大切にし
てほしいと思います。



収穫の秋を迎え、この冬には
青大豆を使って子ども達と一
緒に豆腐と味噌を作ります。
私も初めての経験なので楽
しみにしています。

ゆかたの着付けを習って

吉田 美穂

七月二十六日、二十八日の二日間にわたり、着付け教室に母と一緒に参加しました。



私自身、ゆかたの着付けは初めてだったので、一人で着付けが出来るようになる

のか不安でしたが、講師の野間紀代美先生は、一人ひとりとても丁寧な指導をしてくださいました。また、参加されていた方々ともお互いに教え合いながら習うことができました。家に帰ってからは、教室で教えていただいたことを思い出しながら練習し、七月三十一日に行われました貝がら節祭りには、自分でゆかたを着て行くことができました。

短時間でしたが、参加されていた方々と交流し、楽しく着付けを習うことができました。



実も付きました。



今後も、このような公民館の催しにさまざまなた方が参加してほしいなと感じました。また、私もこのような機会がありましたら、ぜひ参加させていただきたいと思えます。ありがとうございます。



事務所の窓にゴーヤのカーテンを作りました。厳しい西日を遮る緑の葉が涼しそうです。少しは省エネになるかな



上期事業の一部を写真でお知らせします。



子ども陶芸教室

回を重ねるごとにろくろも手に使えるようになりました



お花のお皿
かわいいでしょ

宝木の寺子屋



勉強に集中しています

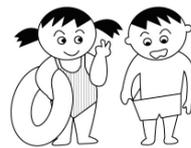


ビーチバレー奮戦中

宝木っ子まつり 船磯海岸で地曳網を引きました



もう少しだ！
力を合わせてひっぱれー！



ちびっ子達も
がんばっています



うわ！でっかい
スズキだぞ！



高級魚の
舌ヒラメかな？

編集後記

上期公民館だよりの発行するにあたり原稿をお願いした皆様には、快く引き受けていただきありがとうございます。「公民館だより」を読んで事業に参加してみたいと思われる方が、一人でも多くなれば編集委員としても嬉しい限りです



何が捕れたかな